

1. 能登半島地震を受けた発電所の状況①

- 今回の能登半島地震でプラント設備の異常や液状化等の被害、外部への放射能の影響は確認されていない（1月10日時点）
- なお、地震加速度は中越沖地震と比較しても大きく下回る
- 今回の能登半島地震から新たな知見があれば、その内容を踏まえて更なる安全性向上を図っていく

能登半島地震と新潟県中越沖地震の
各号機原子炉建屋観測点（最地下階）における
加速度振幅値比較（単位：Gal）

号機	能登半島地震 (2024年1月1日 16時10分頃)			新潟県中越沖地震 (2007年7月16日 10時13分頃)		
	NS(北南)	EW(東西)	UD(上下)	NS(北南)	EW(東西)	UD(上下)
1	76.3	51.1	38.0	311	680	408
2	75.2	45.4	46.7	304	606	282
3	87.1	60.5	50.9	308	384	311
4	66.7	63.7	42.2	310	492	337
5	80.9	63.7	45.1	277	442	205
6	86.4	61.9	51.8	271	322	488
7	84.2	72.3	61.8	267	356	355

- ✓ 6号機にてプラント点検の一環として中央制御室の記録を詳細に確認をしたところ、原子炉建屋3階にある原子炉自動停止信号を発信する制御用地震計にて設定値（水平185Gal）を上回った信号が出ていたが、現在は燃料が装荷されていないため、プラントへの影響はない。
- ✓ なお、最地下階の加速度は各建屋の設計の基礎となるものであり、地盤に近く他の影響を受けづらいことから、この数値を公表している。

<参考：地震発生時の発電所時系列>

○2024年1月1日

16:06 能登地方で地震（震度5強）
火災報知器が発報
（サービスホール、固体廃棄物貯蔵庫）
→その後、公設消防により誤報と判断

16:10 能登地方で地震（震度7）
柏崎市、刈羽村で震度5強

16:22 通報連絡の第1報を発信
（その後、1月2日にかけて第10報まで発信し、
プレスリリースも実施）

18:45 1～7号機のプラント現場点検を開始

○2024年1月2日

0:00 海側設備を除き、現場点検を完了

12:25 海側設備を含むすべての現場点検を完了

13:26 溢水のふき取り、排水ラインによる排水完了

2. 能登半島地震を受けた発電所の状況②

- 今回の地震における、使用済燃料プールの損傷はなし
- 2,3,4,6,7号機において、使用済燃料プールからの溢水が確認されたが、溢水対策として貫通部等の止水処理を実施しており、オペレーティングフロア（管理区域）外への漏えいはなし

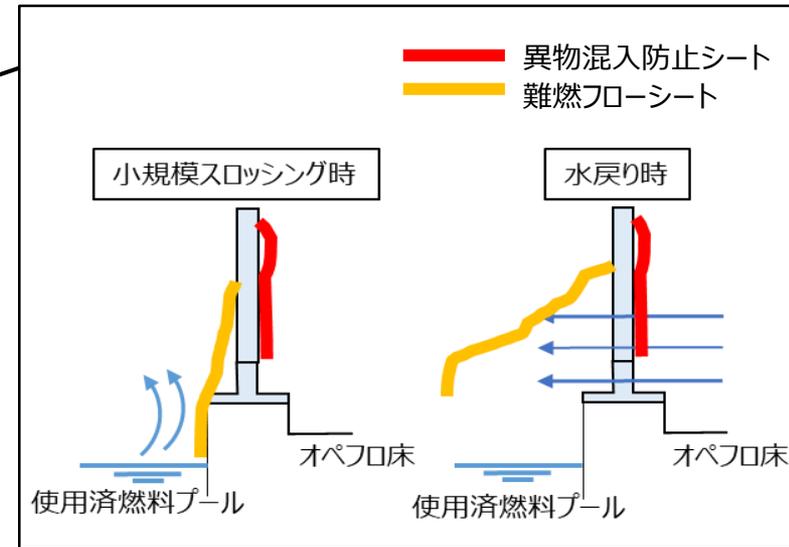
	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機	7号機
溢水量	なし	約10 L	約0.46 L	約45 L	なし	約600 L	約4 L
プール容量	約190万L	約170万L	約160万L	約160万L	約160万L	約230万L	
放射エネルギー		検出限界値未満	コバルト60 322Bq※	検出限界値未満		検出限界値未満	検出限界値未満

※微量な放射エネルギーの目安：3700000Bq

溢水した約600Lは、主に燃料取替機のレールの溝に滞留



6号機 オペレーティングフロア（管理区域）



6,7号機は、使用済燃料プールの水が大量に溢水した際に、プールに水が戻り、使用済燃料を冷やせるようにしている。

<参考：2007年7月16日 中越沖地震を踏まえた溢水対策>

- 経緯
 - 地震で溢れ出した使用済燃料プールの水が、燃料取替機の床下ケーブル貫通部を通じて非管理区域へ漏えいし、非管理区域の排水設備から放水口を經由して発電所外へ放出
- 対策
 - 燃料取替機のケーブルを、床下から壁を通じて貫通するルートへ変更
 - 従来の床下ケーブル貫通部をコンクリートで埋め戻し
 - 使用済燃料プール脇の柵にプールから溢れる水の量を低減させるパネルを取り付け ※現状は前項の対策に変更
 - 建屋内の水を海へ放出する前には、放射能を測定

